

横須賀市浦郷町 防火・防災クラブ

神奈川県横須賀市浦郷町防火・防災クラブ
会長 石渡 清美



【はじめに】

横須賀市の防火・防災クラブは、昭和55年に4地区において結成され、私が会長を務める浦郷町防火・防災クラブにつきましては、平成5年に結成し、現在27名のクラブ員により活動を行っています。

また、市内全体では、16クラブ、約400名のクラブ員が在籍しており、横須賀市防火・防災クラブ運営協議会を通じて、各クラブ間の交流も盛んに行われております。

【活動紹介】

浦郷町防火・防災クラブが活動する地域は、急斜面や3方が山で囲まれた谷戸地域に多くの住宅が密集して建てられていることから、火災が発生した場合、多くの被害が出るのが予想されます。このことから、まずは各家庭から火を出さないことを基本理念とし、また、火災予防運動などの機会を捉えて、町内のご家庭を訪問し住宅用火災警報器の設置促進、火の取扱いなどの注意喚起

を積極的に行っております。このような活動を通じて、地域の活性化にも一役買えればと考えております。

【今後の活動について】

新型コロナウイルス感染拡大の影響で思うような活動が出来ていなかった状況が続いておりましたが、地域に根付いた活動を行っている防火・防災クラブの果たす役割は今後、ますます重要になってくるのではないかと考えております。

そのため、今後も精力的に活動を行い、地域における火災予防思想の普及啓発、しいては地域の活性化のため精進して参りたいと思います。



宇部市西岐波地区 自主防災会

山口県宇部市西岐波地区自主防災会
会長 藤高 和久



西岐波地区自主防災会は平成11年台風18号の被害を機に組織されました。自治会連合会、コミュニティ推進協議会各団体、消防団と協力し、災害時に必要な物資を緊急避難場所、避難所に揃えました。西岐波地区は海岸線沿いに位置しており、特に台風による被害が懸念されています。毎年、台風時には避難場所に避難される方がいます。令和2年、令和3年と新型コロナウイルス感染症のなかでの避難場所開設には大変苦慮しました。特に令和2年の台風10号では最大で71名の方が避難され、コロナ禍での避難場所の運営の難しさを痛感しました。避難された方も大変不安だったと思いますが、避難された方からのお礼の言葉や手紙により自主防災の必要性を改めて感じました。

感染症予防やプライバシーの保護の観点から避難を躊躇される方に対しては、感染防止対策を徹底していること、間仕切りテントによる空間の確保が可能であることを説明し、避難することを呼

びかけています。

また、西岐波地区自主防災会では地域住民の皆様に自助の意識を持っていただくために毎年8月に防災訓練を行っています。参加者の年齢層も幅広く、防災意識の浸透を実感しております。今後も様々な場で防災の重要性を呼びかけて、防災意識の向上に努めていきたいと思っております。

